日本の展望委員会 情報社会分科会（第５回）

議事要旨

１． 開催日時　平成 21 年 4 月 23 日（木）14：00～16：00

２． 開催場所　日本学術会議２階　大会議室

３． 出席者（敬称略）

（委員）武市正人、池田眞朗、直井優、斎藤成也、新山陽子、

田中英彦、大江和彦、山口いつ子

（事務局）渡辺、戸田、中島、大西、鳥生、山本

４． 配布資料

資料１　前回議事要旨案

資料２－１　日本の展望「中間報告の概要」

資料２－２　日本の展望「審議の経過および検討の論点の整理」

資料２－３　第４期科学技術基本計画に盛り込むべき事項案

資料３　分科会から提言に盛り込む事項案

参考１　日本の展望委員会 審議経過報告（起草分科会）

参考２　委員名簿

５．議事

（１）前回議事要旨の確認

資料１に基づいて前回議事要旨の確認が行われた。

（２）審議の経過および検討の論点の整理について

武市委員長から、資料２－１、資料２－２、資料２－３および参考１に基づき、当分科会の審議経過と検討の論点の整理に関する総会報告等、また、他の分科会の審議経過等について、説明が行われた。

（３）分科会報告書案について

武市委員長から、起草分科会に対する分科会報告書（20 頁程度）の提出期限は本年７月末となる予定であること、また、報告書のフォーマットは、本年４月 30 日の起草分科会にて提示されること等が説明された。加えて、武市委員長から、当分科会報告書の構成案として、各委員が担当のキーワードに関して執筆した説明文書を基礎とした上で、「I. 総論－安全で安心できる持続可能な情報社会に向けて」、「II. 各論　学術の課題」、「III. 学術からの展望」、といった三つの柱を立てることが提案された。この提案に基づき、委員間での議論を行った結果、次のような形で報告書の作成を進めることが合意された。

1) 本年５月15日までに、各委員は、担当のキーワードについて、これまでの説明文書と議論（資料３を参照）を踏まえて、A4にて１枚半頁程度で原稿を執筆し、電子メールで山口幹事宛に送信する。原稿の形式に関しては、「(1)問題の所在」、「(2)取り組むべき課題」、「(3)提言」、という三つの項目を立てることとする。

2) 原稿の執筆に際して、情報社会の「影」の側面を過度に強調することのないように、情報が現代社会において有する意義や重要性といった「光」の側面を明確に示すように留意する。また、執筆における共通の問題意識として、とりわけ、資料２－３の１頁の文章「今後の安定した情報社会基盤を整備するためには、生活者の視点から、社会にとけ込む科学技術の開発を進めてこの停滞を打破する必要がある。2002 年の時点では、『情報技術の活用』という面から捉えていたが、現時点では、これを『社会が求める情報技術』という面に重点を移すべきである。」を念頭に置くこととする。

3) ５月下旬を目処に、各委員から提出された原稿をとりまとめたドラフトを、各委員に電子メールで送信する。

4) ６月26日の次回分科会において、報告書のドラフトについて検討を行う。

（４）次回の分科会の開催

次回の分科会は、6月26日10時から日本学術会議において開催する。

（議事要旨作成者　山口）